平成29年度　第３回伊豆市教育振興審議会会議録

開催日時　　平成29年11月29日（水）午後７時15分～午後８時45分

開催場所　　伊豆市役所　別館　２Ｆ　大会議室

出席委員　　菊地篤子会長、勝呂義衛副会長、澤木育子委員、鈴木和仁委員、
鈴木浩二委員、鈴木洋一委員、金子歩美委員、石井美香委員、井澤彩香委員、
原勝也委員、藤江康彦臨時委員、菊池之利臨時委員【12名】

欠席委員　　小笠原茂委員、鈴木千秋委員【2名】

事 務 局　　西井教育長、金刺教育部長、菊地統括監、若月指導主事、小塚主幹、
鈴木主任

１　開会
ただいまより第３回伊豆市教育振興審議会を開会いたします。

２　会長挨拶
11月中は中学校の見学会が実施され参加された方はそれぞれ様々な意見や感想を持たれたことだと思う。今回は中学校の先生にお越しいただき、この後中学校の現状について報告いただき、質疑応答の時間があります。見学会に参加されなかった方はもちろん参加された方も直接校長先生に聞けるチャンスなのではないかと思う。

３　中学校の現状報告＆質疑応答
〇天城中学校（校長）
３つの学校の中で生徒数が一番少ない。中伊豆中と天城中が似たような状況ではないのかなと思う。基本的な状況については経営書で確認されているかと思うが、生徒数が１年生26名、２年生42名、３年生40名。合計108名。この人数で、学級数は１年生１学級、２年生２学級、３年生は本来１学級だが、静岡式35人学級の弾力化により２学級となり、５学級で運営している。そのため教員１名の加配をいただいている。教員数は、校長、教頭、教諭９名、養護教諭、事務職員という形になっている。その他、支援員１名、非常勤の職員ということで、ＡＬＴ、図書司書、ＳＣ、ＳＳＷ、心の教室相談員、情報支援員、こういった方を入れると総勢25名で子ども達の指導に当たっている。しかし教諭が９名ということで、各教科の免許所有者となると、国語１、社会１、数学２、理科が１だが教頭が理科、英語２、音楽１で、美術、保体、技術、家庭は免許所有者がなしといった状況。そちらの方は、免外解消ということで、非常勤の講師の方に参加いただき対応している。その状況の中でメリット・デメリットを説明すると、１学級当たりの人数は40人或いは35人で区切られているので、学校規

模というよりは、分けた時に１学級の人数が変わるが、たまたま本校は分けた時にちょうど 20 名を少し超えた人数。これくらいの人数であると教員一人に対する生徒の数が少なく、非常に目が届きやすく、きめ細かな指導を行うのにプラスになっていると思う。ただし、授業を行なっていくと積極的に発言をする生徒がいるとその流れで授業が進んでしまうところがあり、発言をよくする生徒の間で授業が進んでしまって、残りの生徒から「それは違うのではないか」、「こういう考えもあるのではないか」という発言が出にくいのではないかというところがある。そのようなことで、多様な考えがうまれにくいと思う。当然教師はいろいろな考えが出てくるような仕掛けをやるが、100 人が知恵を出すのと 20 人が知恵を出すのとは違うことは予想される。そのようなことで、いろいろな考えが出にくいということと、お互いが切磋琢磨する機会が少ない。子ども達も人間関係が固定されているので、自然に距離感が出来上がってしまっている。ここまでは言ってもいいが、それ以上言うのはよそうかなという所がある。いけないこともきちんと指摘出来なかったりする部分がある。そのようなことが授業の中で出てくるのかと思う。人数が少ない分、教材や備品の一人あたりの使用頻度が高くなり、効果を上げやすい。生徒一人ひとりに発言をさせたり、個別の活躍の場面を設けたりするのはやり易い。生徒会の役員は学年の中から出す。40 名の中から３名出すのと、100 名の中から３名出すのでは活躍の場が変わってくる。いろいろな生徒を活躍させるという点では良いと思う。生徒会から３年生を送る会のことで相談があったが、身内の中でやっているので、こんなことをしたらサプライズかなというように考えることが本来の３年生を送る会ではなくて、お楽しみ会のようなイメージでそこから深まっていかない。そのようなことが先ほど申し上げたような多様な考えがうまれにくいということになるのではないかと思う。複数学級がある場合、７クラスくらいあると担任同士で競う。それに乗って生徒も競う。体育大会や合唱コンクールでも盛り上がった。盛り上がるし絶対に負けないということでやっていたので、若い教師が多かったが、その中で教師同士も磨き合ったのではないかと思う。今そのような関係ができているかというと、天城中は 50 代の教員と 20 代の教員がいて、30 代、40 代の教員はゼロ。その中で若い先生に担任を持ってもらっている。若い者同士の磨き合いもなかなかない中、ベテランはベテランで自分の道を行き、勿論教えたりすることはあるが、もう少し年齢が近い関係の方が磨き合いになるのかと思う。ベテランになってくるとそつなくなってくるのかと感じた。一人一人が活躍する場面ということになると、総合学習である天城学習の発表会が来週あるが、生徒が少ないのですべての子がなんらかの形で発表をすることができる。体育大会では１年生が１クラスしかないため、１年生のクラスを二つに分け、赤組、青組で行った。２年生、３年生はクラスが分かれているからいいが、１年生を二つに分けたため担任が一人一人を把握するのに非常に困難であった。クラス対抗種目もやったが、大縄跳びなど限られたものしか出来ず、それ以外はそれぞれ別れた色の同級生と競うことになったため、可哀想であった。そのようなことで行事については出来るだけ縦割りを使いながら行っている。人間関係が固定されているというようなこともあるので、いろいろな縦割りの組み方をしている。少し変えることにより集団が変わる。クラス替えが出来ない分、

縦割りの集団を少し動かさないと他者との繋がりの中で良い関係ができないのかと思う。部活については指導する教員が限られている。生徒も人数が揃わないケースがあり苦労している。その他、清掃も縦割りでやっている。縦割りの効果が出ているが生徒の数が少ないため、校舎を十分に掃除ができない。教員も回りきれないところがある。男女比の極端な偏りがあり、１年生は 26 名いるが、男子が 7 名、女子が 19 名。授業を行なうのに支障が出てくる。体育などは体力に差が出てくるので、一緒にやるのはなかなか難しいと思う。教員の問題としては、新学習指導要領への対応、道徳の教科化への対応、部活の問題、多忙化解消の問題がある中で学校はそれなりの自助努力はしていると思っている。先生方も頑張っている。しかし小さな学校だと先生の教材研究は非常に大変。同じ学年で４～５クラスあると、一つ教材研究をするとそれで４～５時間同じ授業をやれる。その中で上手くいかなければ、途中で少しずつ改善をすることも出来る。でも本校の場合先生は一発勝負。２クラスある場合は２回やるが、すぐに次の授業の準備が必要となる。しかも学年が３学年に跨っている先生が殆どなので、３学年分の教材研究を毎日やらなければならない。テストになると可哀想なくらい苦労している。３学年分のテストを作るとなると、だいたい一時間分のテストを作るのに５時間くらいはかかる。そういったものを部活指導が終わった後に作成しているという現状がある。これでは勤務時間多忙化の解消にはならない。更に教材研究をするに当たっても同じ教科の先生がいないというのは問題であるかと思う。部活動では経験している競技の顧問をするということはなかなかないので、大変であるし 50 代が多いので高齢化して厳しいのかということがある。教員が少ないので纏まりやすく一体化し行動しやすい。急な対応があってもフットワーク良くみんなでやろうという、子ども達に対しては全職員で全生徒をみるというみかたが出来る。先生方に出来るだけ教科の勉強をしてもらいたいので、出来るだけ研修に出て貰いたいと思っているが、幾つか出張が重なると学校にとっては運営が難しくなる。先生が出張に出るときには教務主任が授業に穴をあけないように、時間割を上手く動かしている。自習を作らないようにしている。これが出来るのも小さい学校だからということもあるが教務主任が苦労している。学年部に３人しか先生がいないので、そのような時には何とか他の学年の先生から応援をもらったりしている状況がある。子ども一人に係る経費が大きくなりやすいのも小規模校の課題。遠足、修学旅行などバスを使用した際、頭割りで計算するものは一人当たりの経費が高い。保護者や地域社会との連携は図りやすい。地域の方が応援してくれている。これもこじんまりやっているからいいのかなと思う部分がある。一方で PTA 活動については、地区から選出する役員が、生徒が少なくなっているため、同じ人が何回も役員で出ないといけないとか、地域を纏めないと役員が出せない状況が出てきている。小さな学校のため免許外の先生が特例で指導することを申請し許可を得てやらせて貰っているが、静岡県は免外教員が多いので改善しろという話もきいている。しかし、人的保障が得られないまま免外教員を減らせということになると一人の教員がものすごく授業を負担しなければならないという問題が出てくる。なんとかその辺を改善してもらいたいと思う。

会長

基本的には、生徒、教員、運営のことについてお話をいただいた。質問があったらお願いしたい。

委員

免許外の教員が２名ということであるが、その先生方が免許外をやらなければならない理由は、持ち時数の関係か。

天城中学校長

主に持ち時数の関係であるが、教務主任と学年主任を兼務していたりというような状況にあり、その先生が社会科の先生なので他の先生が社会科で免外とか、国語の先生が担任を持っているということもあって、複数名いる教科の一人が免外で国語をやって貰っている。

委員

数学の先生に国語をやってくれと言って、気持ち良くやってくれるのか。

天城中学校長

気持ち良くというよりは、不安を感じながらやっていると思う。テストを作成するときなどは、専門外になるので益々大変な様子が見受けられる。

委員

30 代、40 代の教員がゼロということで、50 代と 20 代の先生方で、20 代の先生は若手教員でこれから育っていかなければならないのに、相談できる先生がいないということは、教科指導というのはどのようにしているのか。

天城中学校長

教科指導というのは、田方地区に教員研修協議会があり若手の研修の時に講師を派遣してくれているという制度があるので、それを利用している。初任者は初任者研修がある。５年目まではその制度を利用している。５年研というのもある。それでも年２回の授業研なので、本当は日々研修の場があると良いと思う。教科指導以外で先生の指導は学校全体で行っている。

委員

部活動で他の学校と合同チームを組まないとならないような部活動はあるか。

天城中学校長

現在、女子バスケット部とサッカー部が合同チーム。女子バスケット部は修善寺中に行って入れて貰っている。練習の時には顧問の先生も一緒に行って貰っている。生徒が１名であっても顧問が付いて行っている。普段の練習は無理なので、休日の練習の時に行っている。長期休業中は母親が熱心なため毎日の送迎など協力してくれるので参加出来ている。サッカーは市内のチームで相手がなかったので、函南東中と合同でやっている。合同チームは難しくて、１年生が入部して人数が満たされてしまうと合同チームの要件がなくなってしまう。そういった問題がある。

委員

施設の面で老朽化が進んでいるということであるが具体的に困っていることや今後の対応はどうか。

天城中学校長

現在困っていることは、雨漏りと蛍光灯が古くなり蛍光管を替えてもすぐにだめになるというケースが増えてきた。蛍光灯についている安定器が劣化してきているので全体を替えないといけないということである。傷んだものから交換をして貰っているが、その交換にもかなりの費用がかかるので、教育総務課と相談しながらやって貰っている。一度に換えられたら、全部換えた方がいい。毎回修理の都度、技術料が発生する。何箇所交換しても一回の技術料は同じなので、一度に換えた方が経費の無駄がなくなる。雨漏りも困るので、方向的に修理という事でコンクリートの上のシートを張り直してもらえると直ってくるのか思う。現在はコーティングで対応している。市内で予算の使い方の取り決めがあってその中でやっている。今は限られている学校修繕費と需用費でやっているが、足りなくなった場合は教育委員会で補正予算を組んで、予算をつくり出して貰ってやっている。対処療法でなく、もう少しいい方法でやっていきたい。

会長

応急処置を積み重ねている感じですね。

〇中伊豆中学校（校長）

規模は天城中とほぼ同じ。経営書にある学校教育目標については、平成 27 年に学校に赴任した際にはこの学校教育目標ではなかった。この時に実態をみて、それに合う目標をという事で平成 27 年度に改訂をした。その時の生徒の実態は、学習面では　落ち着いた様子はあるが、教えてもらう感、先生に教えてもらうという感じが強く、先生の授業の進め方も教え込むというような所があった。そのような感じが強く、自ら学ぶという意識が低い。家庭学習や与えられた課題には根気強く取り組めるが、自分の学習課題を意識して、自ら求めて学び続けるという姿勢に欠けているように感じた。また、生活面では部活動や学校行事に積極的に取り組むものの、教師が引いたレールの上を走っているだけで、新しいものに挑戦しようという前向きな姿勢に乏しかった。そのせいか、自分の夢や希望を語れる生徒が少なかったため、自分の新しい可能性を見つけさせたいと考え、失敗を恐れず何事にも挑戦させることで目標に近づけると考え、この「学びを深め、志を持って挑戦する生徒」という学校教育目標を設定した。

学校規模は、正規の教職員数は、管理職を含めて 12 名。その他、養護教諭・事務職員・栄養教諭・講師や非常勤職員、市の事務職員等を含めて経営書には 28 名と記載されているが、最近学習支援員１名の配置があり、29 名で生徒の指導、支援にあたっている。在籍生徒数は、１年 49 名、２年 58 名、３年 53 名で合計 160 名。１クラス 30 名を超えない各学年２クラスの６クラス。

小規模校のメリットとデメリットの話をするが、天城中と共通する部分が多い。メリットとしては、生徒一人ひとりに目が行き届きやすい。全教師が全校生徒の名前を覚えることが可能で、顔も一致する。全職員で細かく指導が行き届く。地域や家庭との連携が取りやすいという所がある。デメリットとしては、集団の中で「多様な考え方に触れる機会」や「学び合いの機会」、「切磋琢磨する機会」が少ない。部活動の設置が制限され、選択の幅が狭くなる。クラス替えも２クラスしかないため困難で、これが原因で学

校に足が向かなくなった生徒もいる。教職員が少ないため、年齢、経験、教科、男女比などのバランスの取れた配置が難しい。教諭は、20 代が２名、30 代２名であとは 50 代。40 代がいない。本校だけでなく、田方だけでなく、全県的にそうなっている。一番中核となる教員の配置がないため、ベテランに頼らざるを得ない。若手の育成にも問題となる。

今後の生徒数と学級数の推計を見た時に平成 36 年度までは、オール２クラスになることだが、平成 31 年度の入学予定者数が現在 38 名でその内、４名以上の転出・転居があるとすると１クラスになり、全校で５クラスになる。その翌年の平成 32 年度の入学予定者数は、36 名でその内、２名以上の転出・転居があると１クラスになり、やはり全校５クラスになる。５クラスになると、１クラス減ったから教員が１名減るというように考えると思うが、２名減らされることになる。２名減らされると、免許外担当者が更に増加することも予想され、部活動では正規の顧問がつけられないという状況も出てくる。我々の本分は、子どもに学力を保障するということが一番大切なことであり、正規の教員が減り、免許外担当が増えるということは、子どもにとって一番不幸なことかなと考える。正規の教員は、国語１、社会１、数学２（教頭を入れると３名）、理科１、英語２、音楽１、保健体育１、技術１名。担当がいない教科は、美術、家庭科の２教科。免外解消教科は、美術、国語、社会の３教科であるが、国語は免外解消の配置ではなく、学び方支援という非常勤が県より配置されている。それが偶然、免外解消につながっている。社会については年度当初市費であったが、年度途中で県費になった。免許外担当は、家庭科、理科、保健体育の３教科を２人。家庭科は音楽の担当が、理科と保健体育は技術の担当がやっている。３教科持っている先生がテストを作成する数を考えた時に非常に重荷になっている。家庭科と音楽を持っている担当は、全学年の家庭科と音楽のテストを作成しなければならないという負担を強いられている。

生徒数、教員数の減少による課題としては、授業だけでなく部活動にも影響してくる。部活動は、運動部８つ、文化部１つの９つ。指導できる教員の数は、管理職、養護教諭、事務職員を除いて10名しかいないため、二人顧問の部活は一つしかない。状況が変わり、部活を持てない教員が出てきたので、現在は全部活一人体制となっている。生徒数の推移を見たときに、今年度は、160 名だが平成 32 年度には、119 名となり４０名以上も減少するということがあるので、生徒数の現状に応じて、部活動の数も精査していきたいと思っているが困難を感じている。それは、私が赴任した平成 27 年度は、野球部が部員の減少から休部状態であったのが、生徒と保護者の強いニーズから復活させた。また、男子バレー部の新入生の入部状況がゼロであったため、平成 28 年度は、男子バレー部は募集をしないようにしようと考えたが、この時も生徒と保護者からのニーズがあった。子どもたちにとって多くの選択肢が必要であり簡単に休部する部活動は存在しないということが言える。グランドで野球、サッカー、ソフト、陸上の４つの部活動が活動している。グランドが狭いのでいつボールが当たって怪我をするというような心配をしながらやっている。合同でチームを組まなければならないという現状はない。合同の条件は厳しく、中体連は同じ市町でチームを組まないと参加できない。先ほどの天城中と函南東中の合同チームは中体連に参加出来ない。協会主催の大会には参加できる。弾力的に

してくれるよう県に要望しているが、まだ回答は出ていない。

施設・設備のことだが、耐震は昭和 59.60 年に校舎の改修工事が終わっているが、基礎部分が骨組みだけなので、外壁等は手つかずのままで心配。今は、トイレの水漏れや雨漏りが普通教室、廊下、階段等である。再編計画が白紙撤回されてから、少しずつ修理している。最近では、防火ドアも閉まらないことが判明。倒壊の恐れはないもののかなりの被害が予想される。幸いにも、体育館は、平成 25 年度に新築されたため、生徒の避難場所は、確保されてる。しかし、地域住民やこども園との連携など課題も多い。

最後に、私は昭和６３年度に初めてこの中伊豆に赴任して、今回で２回目になる。当時の子どもたちと今の子どもたちに共通していることは、素直でまじめで人を思いやる気持ちを十分に持っていることと、家庭、地域も温かく見守ってくれていて、教育活動にも協力支援をいとわないという点。違うところは、３クラスずつの９クラスあり、パワーがあった。最近は小さいころから育まれた人間関係や相互評価の固定化から抜け出せず、コミュニケーション力や耐性の低下が感じられますし、自らを切り拓いていこうとする気持ちが弱くなっていて、現状だけで満足してしまっているようである。これは保護者に関してもいえると思う。我々大人は、このような子どもたちに相応しい学習環境や必要な能力を養うための生活環境を提供しなければならない。そのためには、これから先は何が必要なのかを見極め、子どもたちのために最善の対処をしていくことが我々大人の責務であると思う。

委員

先生方の年齢構成が、20 代、30 代が少なくあとは 50 代ということで中核となる先生がいないということで、若手の育成の授業研でどのくらいのペースで学んでいるのか。

中伊豆中校長

授業研というのは例えば、教育事務所の訪問時に中心授業者に据えてという形での授業は年２回くらいだが、授業公開という形で学期に１回必ず授業を先生方に公開してみてもらう。

委員

免許外教科の指導をしなければいけない事情を定数法や教職員の一週間の平均持ち時間数、さらには免外解消非常勤講師の配置に関する制限項目を含めて分かり易く説明して欲しい。

会長

そもそも免外とは何かを、誰にでもわかるように説明してほしい。

中伊豆中校長

免許を持っていない先生がその教科を担当するということ。

会長

免許はどこでもらうことができるか。

中伊豆中校長

一般的に大学卒業時に単位を取得していれば、大学の位置する都道府県から授与される。

会長

科目ですよね。そこが大事。自分が大学卒業時に取得していない科目を教えなければいけないというのが免外ということでいいか。

中伊豆中校長

そういうことである。本校の音楽の教諭が家庭科を担当しているという話をしたが、クラスの数が６クラスなので、音楽の一週間の授業時数が６時間しかない。この音楽の先生が免許外の教科を持つときには、本免の教科の時間数よりも多く持つことは出来ないという縛りがある。誰かが家庭科を持たなければならない。一番多い時数を持っている先生が一週間に 22 時間。その教諭と音楽の教諭のどちらかが教えなければならないということになり、強制するわけではないが誰かが教えなければならないという現実があるので、それを誰が持つのかというと音楽の先生に家庭科を持ってもらうしかないという考えになる。技術科は一週間に５．５時間しかないので、６時間以上もつことは出来ないという縛りがある。３年生理科を１クラス持つと４時間、２年生体育を３時間というように持たないと、技能教科は時数が少ないので、それだけだと非常にたくさん持っている教諭と持っていない教諭の差が出てきてしまう。英語は各学年１クラス一週間に４時間やらなければならないが、二人いるので免外をつけなくても可能。国語も同じなので一人で持つことは不可能。５教科の教科に一人しか先生がいないため免外が必要になってくる場合と、技能教科の先生が自分の教科を持つだけであると非常に持ち時数が少なくなってしまうというアンバランスが出来る。

天城中学校長

免外指導を解消しようということで非常勤講師を充てるのが免外解消。天城中の場合は、家庭科、技術、美術の３教科で免外解消非常勤講師をお願いしているが、その講師を引き受けてくれる方が最近なかなかみつからない。長くやっていただいた方が辞めるということになると、免許の更新制度の問題もあり次の方をみつけるのに大変苦慮する。

中伊豆中校長

担任を持っていると、道徳１、学活１、総合２の４時間が持ち時数にプラスされるので、担任外との差が出てくる。そのバランスを考えながら免外解消のための教科を何にして県に配置をお願いするのかが重要。

会長

学校の先生のやりくりをお話ししていただいたが、今の２校の問題点を頭に置いて、修善寺中学校のお話を聞いていただきたい。

〇修善寺中学校（校長）

学校経営書の経営の基盤を見ていただくと、学区の概要や学級編制が載っているが、天下の修中といわれたように 1,253 人というのが最大の人数だったそうです。昭和 22 年に始まって今年で 70 年になるが、27 年にカインズの場所に新校舎を建てたそうだ。それが狩野川台風で流され、その後現在の場所に東中学校、北狩野南中学校を統合して、新しく修善寺中学校を創ったという歴史をいろいろな所で聞いた。保護者の中には昭和

に生まれて平成になる保護者が多いが、自分たちの頃には８クラスあったとか、もう少し前の団塊の世代であるとクラスが 60 人だったとかそんな話を聞きながら、勤めさせていただいている。こども達の様子は中伊豆、天城と同じように明るく素直であるが、芯が通ったという部分があると思う。中伊豆、天城で少し自信がないかなと思いながら過ごしているこども達を見ていたので、修善寺の子たちは昔ながらの田方の中心だという気持ちを持ちながらきたのかなと感じる。当時は 45 人クラスで、７～８学級あったが、今現在は１年生が４学級、２年生が３学級、３年生が４学級。２年生が入学する時に３クラスというのを聞いてショックだった。今は 35 人で１学級なので、105 人までは３クラスである。田方地区の韮山、長岡、大仁中に比べて修中の方が大きいのかと思っていたら小さい。長岡中が次に小さくて 370 人くらいで 12 学級ある。伊豆市の人口減は厳しいと思う。３クラスあるので、１クラス、２クラスより良いと思うかもしれないが、３クラスでも人間関係の複雑さを解消するのに、クラス替えをして新しい関係を迎えさせたいと思うが、なかなか難しい。１クラスだったら双子の子も一緒に勉強しなければならなくなる。１年生と３年生は４クラスの偶数で運動会などもやり易い。２年生が３クラスになったときに、縦割りで縦の繋がりがなかったので困った。修善寺中には６組、７組、８組の特別支援学級がある。情緒と知的のクラスがある。特別支援学級は８人までは１クラスでできるので丁寧な指導をしている。天城、中伊豆からも通っている。集団が大きくなるとこども同士が学び合える。こども達は先生から学ぶということは勿論あるが、こども同士で学び合ったりすることも大切なことであると思う。

職員は全部で 40 名、県からの給与で働いているのが 25 名で教員は 21 名 10 教科、全教科の教員がいる。全教科の教員がいるので、免許外で困っているとうことはないと言いたいのだけれども、時間数の問題で調整できないところがあるので、市で非常勤講師を３名配置してもらい、教科のバランスの悪さを解消している。教科別授業時数は年間でこれだけの時数やると決まっている。保健体育の先生は週に３時間なので、３時間×４クラス分の授業をやらなくてはならない。人数は多いが教科の授業時数も増える。そこで多いとか少ないとかやり繰りして、合わないところを非常勤講師で賄っている。国語は学年ごとに先生がいるので、その学年の授業を責任を持ってやっているので授業がしやすい。体育は教員２名で、男子の１～３年、女子の１～３年とに分けてやっている。美術は１名のため、１～３年の全部のクラスを持っている。今、成績をつけているが 363 名全員の成績をつけている。英語は週４時間で、国語と同様に学年ごとに先生がいるのでやり易い状況。数学の教員は 60 代と 30 代２名で、40 代がいない。国語は 60 代、40 代、20 代。技術は 20 代１名で教わる人がいないので、外部の先生を頼んで研修している。30 代の教員と話をしている時に次はどのような学校に行きたいか尋ねたところ、できたら大きい学校に行きたい。まだまだ教わりたいことがあるので、そのような所で勉強したいということであった。

部活動は 15 部活動である。過去に男子バレー部が休部、野球・ソフト・サッカーが合同チームになったこともある。野球・サッカーはシニアでやっている生徒もいるので、部員数は少なくなっている。新中学校ができるということだったので、それまでは、15 部活を維持しながら新しい中学校へ繋げたいと思っていた。部活の顧問は二人いないと

大変。体調が悪くても休めない。土日も試合に行かなければならない時に代わりの先生がいない。外部コーチが７名いてくださりありがたいが、そのような形でようやく維持している。中伊豆・天城から部活を希望して指定校変更で来ている生徒が１年生で６名いる。

施設については、校舎は 30 年使用しているがきれいで耐震もまだ良好だが、中のライフラインは血管が壊れている人間のように、水道・電気の関係がかなり厳しい状況。新校舎が出来るということで最低限の修理で済ましてきたが、トイレ・水道などはどこが漏れているか分からない。トイレは今の状況がこども達に合っていないと思う。ＩＣＴの関係で電子黒板を入れたり、コンピューターをもう少し使用したいと思うが導入は止まっている状況。机・椅子もボロボロの状態のまま。新中学校にならないのなら早く改善をしていきたいと思う。

修善寺中は中規模から小規模に移りつつある状況。中学校は５クラス、６クラスというのが当たり前の規模である。３～４クラスのいいところも沢山あるが出来ればもう少し多い人数で学ぶ方が伸びるのではないかと思う。学年の集団が大きいと、こども達は自分のクラスで力を発揮する場と学年の全体の中で力を発揮する場の２種類ある。また学校全体で活躍する子もいる。こども達それぞれに合ったステージがある。

将来、これからいい環境で学ぶ場を提供してあげたいと思うが、今の子たちにとってはどうなのか。３年後に出来たとしても来年入学する子には関係がない。今のこども達を大事にしながら、未来に向かってどのような教育環境にするのかということをこの場で検討していただきたい。

委員

規模が小さい学校がということだが、修善寺中学校はかつては生徒が多かったということで、修善寺中に、天城中と中伊豆中の生徒が全部集合して授業が出来るのかどうか。

修善寺中学校長

結論から言うと難しいと思う。今の校舎では教室の数は 12 クラス、学年４クラスがベスト。英語専用の教室にしたり、図書室・コンピューター室を拡張したので、以前の状況には戻れない。最大でも 15 クラスだが、特別支援学級が２～３クラスあるので、やはり学年４学級プラス特別支援学級がベスト。グランドも狭い。修善寺グランドも使用しているが、道路が狭く生徒が暗い中移動するのには問題がある。

委員

修善寺中学校は教員の人数や教科のバランスが最初の２校と違うが、校内の研修の中で最初の２校と違うところを教えていただきたい。

修善寺中学校長

自分たちでやる研修は勿論行うが、訪問という指導を受ける場があるが 12 学級以上あると二人の先生がみえてくれる。今年は英語と総合で、全教員を二つに分けて研修を受けた。英語、数学、国語、理科は教員が３名いるので学べる。社会、体育は２名。家庭科、技術、美術は１名。

会長

１学年４クラスあるといろいろなものが回るというイメージを持った。今お話いただ

いたことは教員側のことが多かった。その他のことで何か質問などがあったらお願いすしたい。

委員

どの学校も設備の修繕箇所が多いということであるが、年間の修繕費はどのくらいか。

事務局

天城・中伊豆・修善寺の中学校の修繕費は、３校で特に何かをやるということでなければ、1,000 万あるかないかくらい。

委員

割り振りは緊急な修繕箇所ができたら、そこに回している感じか。

事務局

そうです。最近は今いるこども達を蔑ろにしてはいけないということで、中伊豆中が照明が暗いということで昨年と今年少しずつ換えている。天城中も予算の中で出来るところは直している。中伊豆中が雨漏りがひどいといことで来年度は中伊豆中を大掛りにという計画ではいる。方向性が決まってこないと予算を付けてもらえないので、施設を管理する担当としては、早くこども達のために動きを決めていただければ修繕なり整備が出来ると感じている。

会長

維持のためのお金がすごく掛かっていることは認識できることなのではないかと思う。４小学校から集まって入学してくる修善寺中と、１小学校だけから入学してくる中学校のこどもの違いを伺いたい。

中伊豆中学校長

授業を見ているとこの子の言うことが正しいというような雰囲気が小学校の頃からできていて、その子が言ったからそれが正解だということで変わらないということがある。

修善寺中学校長

４つの小学校ということであるが、それぞれの小学校から 30 人を割るような人数できているので、人馴れしていないというか切磋琢磨していないせいか中学校に来てびっくりしている感じ。中１ギャップというが、それがないように連携を取っているが、初めてクラスを分けられた時に上手くいかないこども達は大勢いる。小さいところでやる良さもあるが解消できるようにしてあげたい。

委員

天城中、中伊豆中、修善寺中の違いは、こども達の目の色が違う。やはり修善寺中の生徒は元気がある。天城中・中伊豆中のこども達は仲間同士という感じがして授業中の声も小さいし、少し意欲に欠けているという感じがした。早く３校を統合してあげたいと思った。部活を見ても同じ競技をしていてもやはり声が小さい。天城中にしても中伊豆中にしてもボランティアの方が一生懸命やってくれていた。

委員

見学の日程が変更になり参加できなかったため、中学校の現状が分からないので、今校長先生方から話を聞いて、そういう状況なのだという感想しかない。こどもが修善寺

東小学区なので、こども園からずっと１クラスで中学校になってクラスがという不安があったので、話を聞けて良かった。

委員

中伊豆地区もこども園からずっと９年間以上同じメンバーでやってきている保護者として、こどもの中でポジションが決まってきてしまうという自分に意見があったが、話を聞いて先生方の意見としても確認できた。

委員

自分が育ってきた中学校のイメージしかなく、３クラスではあったがすごく楽しかった。その位の人数でもいいのではないかと思っていた。来年４月に中学に入学する保護者から、野球部に入りたいが今休部しているという話を聞いた。一人でも野球をやらしてくれるという話があったが、その子のやりたいレベルの野球は出来ないし、休部という形だと他の学校に移ることも出来ないという話を聞いたら、私の時代はそういう悩みは全くなく天城中に行くというだけであった。小学校を卒業する段階で部活をどうするかとかそういうことで友達とはなれなければいけないとか昔なかった悩みを持たせてしまうのは可哀想だと思った。そういう悩みが出てきてしまうのであれば早く３つの学校を統合してあげるのが一番なのではないかと思った。

委員

土肥は校舎の施設を新しくしているが、ライフラインは地中に潜っているので、追加工事でやって貰ったりしていて、改修の難しさを感じる。天城、中伊豆よりさらに少なく１クラスずつしかないため、教員は授業を３学年持つのが当たり前になっていて負担が大きい。そのような中で若い先生が日常相談できる相手がいないというのはハンデがあり、外に出してあげる機会も少ないのは可哀想なところがあると思う。そのような中で生徒の横の繋がりが少ない分、縦の繋がりをということで縦割り割り活動にして、いろいろな人間関係の環境を作っている。

委員

３校の校長先生の話を聞いて、人の問題を主体として話をされていると思った。生徒達の問題、先生方の問題。自分が技能教科であったので、何百人の成績をつけるというのは本当に大変。３学年のテストを作りながら、他の教科のテストも作ったわけであるが作るだけでなく採点もあるし本当に大変だということを思い出した。そういう大変な先生の中でこども達が教えて貰うということは、熱心にやっているとは思うが身体を壊してしまうと困るし、力が入らない時もあるのではないかと思う。

委員

各学校の労働環境を細かく説明していただき勉強になった。学校運営にすごく苦労されているのだと思った。小学校で各年代の卒業文集を見せて貰ったが、必ず勉強と部活を頑張りたいと書いてある。親としては、勉強は勿論だが部活も自分が希望するような、やってみたいというような、挑戦するという意味ではある程度選択肢があった方が、こども達が挑戦するということではいいのではないかと思う。天城は小学校が一つになって、ある年代から新しい友達を作りたいという言葉がなくなっている。そのようなことを考えると新しい友達を作るというのは、修善寺中学校はいろいろな小学校からきて心

配もあると思うが、新しく人間関係が広がっていくのはいいのかなと思うとこども達の夢の一つを少し人数が減ることで奪ってしまうのかと思うと、３校を統合するような方法でいくのが、先生にとっても、こどもにとってもいい方向にいくのではないかと思い始めている。

委員

自分が通学していた狩野中学校は小さな学校であったが、当時上船原小学校と狩野小学校の二つの小学校から来ていた。中学校の説明会の時に初めてお互い顔を合わせ、いろいろな意味で高揚感というか、中学校に入ったら新しい人間関係が出来るのだという喜びや夢があったということをそのような小さな学校でもあったということを思い出した。夢や希望が集団の中で育つのが学校なのではないか。集団の中で学べるから学校なのではないかと改めて思って、いろいろな挑戦が出来たり、自分で学ぶ力が蓄積されていったりするのではないか。中学校の事や伊豆市のこども、一番考えなければならないのはこども達で伊豆市のこども達がこれからどのような学びの場を貰えるのかという環境を整えてあげるのが私達の義務で、改めていろいろな声を聴いて何が一番大切なのかをもう一度考えるべきだと思った。

４　その他

第４回の開催は、12 月 21 日（木）19 時 15 分から別館会議室に決定

５　閉会　午後８時 45 分